

四三四一番

橘たちばなの 美袁利みをりの里さとに 父ちちを置おきて 道みちの長道ながちは
行ゆきかてぬかも

四三四二番

真木柱まけはしら ほめて造つくれる 殿とののごと いませ母刀ははとじ自
面おもて変かはりせず

四三四三番

我わろ旅たびは 旅たびと思おもほど 家いひにして 子こ持めち瘦やすら
む 我わが妻みかなしも